

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		unico大分				公表日	令和7年2月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		物品を整頓し、十分な広さを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切に配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	勉強に集中できるような個別学習室や、クールダウンできるリラックスマームを配置している。	トイレに段差がありバリアフリー化はできていない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日掃除を行い、感染症対策として消毒等を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		過ごしたい場所を自分で選択し、自由に使用できるようになっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		毎日の朝礼、毎月のミーティングに職員が参加し、振り返りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		令和6年度から実施しており、業務改善に繋がってきたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングや朝礼を通して、意見交換や情報共有を行っている。また、随時会議などを行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	第三者ではないがunico本部（福岡）から外部評価を行い、改善に努めている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		定期的に研修が行われている。また、研修に参加した職員がレポートを作成し、共有を行っている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		毎月ワークショップ表を作成し、活動内容を公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメント表を用いたり、直接聞き取りを実施し、計画書の作成をしている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		基本情報等を個別ファイルにて保管し、情報共有できる状況になっている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		HUGを使用し、随時計画書の内容を確認・共有することができる。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		アセスメントシートの記入については1年に1回更新しながら共有をしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		利用時間や児童の体調等に合わせて、ガイドラインに沿った形で、創作・余暇・自立活動等複数組み合わせた療育支援を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		ミーティングを通して話し合いを行っている。月1回ワークショップ会議で立案している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節や個々の発達状況に合わせて、毎月違う活動プログラムを提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		集団・個々とその日のご利用者の状態に合わせて、活動提供ができるように準備・計画をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼や送迎前にその日行われる支援内容、役割分担について確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		当日もしくは翌日の朝礼で職員へ伝達事項の周知を徹底している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		HUGを使用し、毎日必ずご利用者毎に記録を残している。検証・改善については当日もしくは翌日の朝礼で行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に1回モニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		4つの基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自己選択が行えるように活動の強制は行わないようにしている。また、職員の声掛けの仕方などを工夫している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者・児童発達管理責任者が主で会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			連携はしているが、密な連絡は行えていない為、今後の課題となっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		連絡調整は学校に直接行うことがある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2		就学前に利用していた児童発達支援事業所との関わりはあるが、保育所等との情報共有はできていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2		移行する事例がまだ無い。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		連携を図れていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2		公園や外出時に交流することがあるが、定期的に行っているわけではない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		情報収集は行っているが、参加は来ていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳や送迎時に保護者への情報共有を行っている。必要に応じて電話や面談等も実施している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		実施できていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明を行っており、不明な点は随時説明をするようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		随時確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		総合的な支援方針、長期目標、短期目標を踏まえて説明を行い、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的な面談以外でも必要に応じて保護者から相談があった場合には適宜対応し、相談内容に応じて相談日などを設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2		保護者、きょうだい動詞での交流はできていないので、交流できる機会を検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情解決体制を整え、苦情や問い合わせがあった場合にはマニュアルに従って検討し、対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		活動概要や行事を定期的に行っており、保護者に対して個別に連絡を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報が記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管している。写真の取り扱いにも注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		ワークショップの様子等の写真を撮り、保護者へ活動の内容・様子を伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		祭りを行った際には、利用児童の家族等は招待したが、地域住民を招待するまでは至っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルについては施設内に保管し、閲覧できるようにしている。	保護者への定期的な周知は行えていない為、発信できるような方法を検討していく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを施設内に保管し、閲覧できるようにしている。避難訓練に関しては年2回実施している。	利用日によって、避難訓練に参加できていない児童もいる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に体調急変時の同意書や薬依頼表に記載してもらい、把握している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時にフェイスシートに記載してもらっている。また、保護者に随時確認しながら対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、共有している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		何かあればその都度家族に連絡をするようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事例があった場合は報告書を作成し、朝礼や会議を通して共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待や権利擁護に対する知識を身に付け、関わられるように研修を実施。虐待防止委員会を設置し、最低年2回は会議を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に身体拘束にあたる行為を説明し、同意を得ている。身体拘束適正化委員会を設置し、最低年2回は会議を行っている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	unico大分		
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童主体の活動を行っており、内から湧き上がる「楽しい」「知りたい」「おもしろい」といった内発的動機付けを引き起こし、さまざまな場面に自ら適応できる育つ力を高めている。内発的動機付けを高めることにより、自分で考えて行動が出来る児童が増えている。	・活動を利用児童が自由に選択できるようにしている。 ・得意な事、苦手な事を活動の中に取り入れ、色々な経験ができるように工夫している。	・余暇活動の選択を増やしたり、友だちと話し合いをしながら楽しめるゲーム等を工夫して取り入れる。 ・興味や経験した方がよい事等を職員間で検討し、選択してもらいながら楽しく活動参加できるようにする。
2	・独自のワークショップを作成し、毎日違う活動を行っている。土曜・祝日・長期休みでは遠方への外出なども実施している。	・特別な体験ができるように工夫している。 ・家庭ではなかなか行くことが難しい場所への外出を行っている。	・児童が興味を持てるような活動内容や、外出先の幅を増やしていく必要がある。
3	・施設内の色味なども考え、明るい雰囲気作りを行っている。プレイルームなどを広く使えるように調整している。	・施設内の物品を極力減らして、広く使えるように環境調整を行っている。また、清潔に使えるように毎日掃除、消毒を行っている。	・経年劣化している部分もあるので、その都度補正を行っていく必要がある。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋を分けているが、部屋を自由に行き来することができ勉強など静的活動をしている児童が集中出来ないことがある。	・明確に活動の部屋を分けていない。	・声掛けなどを行い、静的活動をしている児童がいる事を知らせたりしながら集中できる環境を作る。 ・可能であれば場所の移動なども行ってもらおう。
2	・同じ建物内に会社などもあり、駐車場内の交通量が多く事故に繋がる可能性がある。	・駐車場内の交通量が多い。	・可能な範囲、乗降の際には施設の前に車を停車を行う。また、駐車場内を移動する際には職員付き添いの元移動を行い、安全配慮を行う。
3	・教室内にトイレが1つしかなく、排泄時間が重なると混雑してしまう事がある。	・トイレの数が不足している。	・混雑しそうな場合は前もって声掛けを行い、安心して排泄できるように配慮していく。